

平成28年度  
島根県学力調査  
結果概要

島根県教育委員会

# I. 実施概要

## 1 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握するとともに、全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の教育施策の充実と学校における指導の一層の改善に資する。

## 2 実施日

平成 28 年 12 月 13 日(火)・14 日(水)

## 3 実施校数

公立小学校（県立特別支援学校小学部を含む） 206 校

公立中学校（県立特別支援学校中学部を含む） 103 校

（国立小・中学校及び私立中学校は不参加）

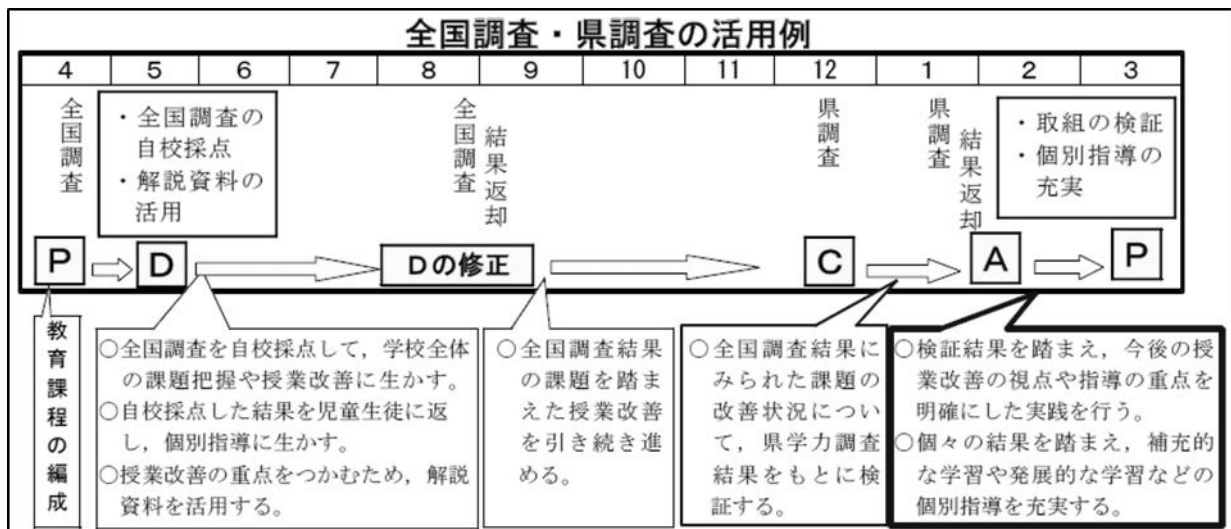
## 4 実施学年・教科・人数

	教科 学年	教科に関する調査					生活・学習に 関する 意識調査	実施人数
		国語	社会	算数 数学	理科	英語		
小学校	第 3 学年	○	△	○	△	△	○	2,397
	第 4 学年	○	△	○	△	△	○	4,085
	第 5 学年	○	○	○	○	△	○	5,335
	第 6 学年	○	○	○	○	△	○	4,071
中学校	第 1 学年	○	○	○	○	○	○	4,019
	第 2 学年	○	○	○	○	○	○	5,639

※ 松江市は小学校 3 年生が不参加。出雲市は小学校 5 年生が国語、算数のみ参加、中学校 2 年生が国語、数学のみ参加。益田市は小学校 3 年生が生活・学習意識調査のみ不参加。

## 5 県調査の考え方・特徴

(1) 実施時期を昨年度から 12 月に変更し、PDCA サイクルの構築を推奨している。



(理由)

- ① 全国調査で明らかになった課題を改善するための指導の取組を、島根県学力調査（以下「県調査」という。）で検証するというPDCAサイクルを確立し、指導の改善を効果的に進める。
- ② 今年度の指導の状況について客観的に評価し、個別指導を充実することにより、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるようにする。

(2) 教科に関する調査

以前は委託業者の標準問題を使用していたが、昨年度の調査より島根県独自のオリジナル問題を作成。全国調査等で明らかとなった課題の改善状況を検証することをねらいとしている。

(3) 生活・学習に関する意識調査

全国調査結果を踏まえた取組の検証という観点から、全国調査の質問項目と同じ項目を設定。

(4) 課題をとらえやすい帳票と分析ツールの提供

各学校が自校の課題をとらえやすいように帳票の表示を工夫するとともに、学力と意識のクロス分析や結果チャートが簡単に作成できるような分析ツールを提供。

(5) 子どもたちの事後学習を促すための個人帳票の提供

結果を記載した「個人成績表」に加え、事後学習に活用できる「フォローアップシート」を提供。

## 6 用語

- 「正答率」 各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合（％）の県平均。
- 「観 点」 指導や評価のために、児童生徒が身に付けた力を分析的に捉える視点。「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つ。
- 「領 域」 各教科の学習内容を系統的に示したもの。算数であれば「数と計算」「図形」など。

## 7 公表する調査結果（教育指導課ホームページにも掲載）

(1) 平成28年度島根県学力調査 結果概要

I. 実施概要

II. 全国調査でみられた主な課題の改善状況

III. 教科に関する調査と生活・学習に関する意識調査のクロス分析結果

IV. 今後の対応

(2) 平成28年度島根県学力調査 教科に関する調査結果概要（資料1）

(3) 平成28年度島根県学力調査 生活・学習に関する意識調査結果概要（資料2）

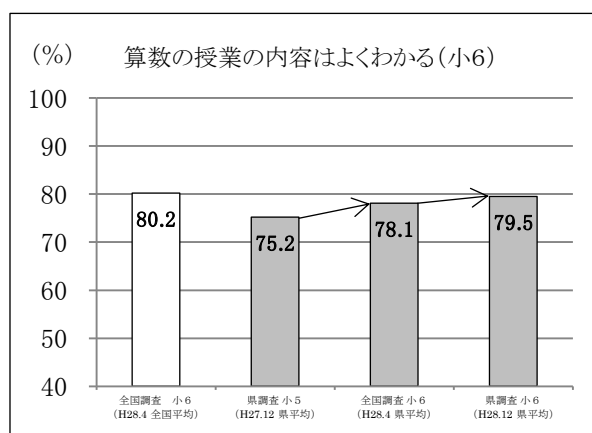
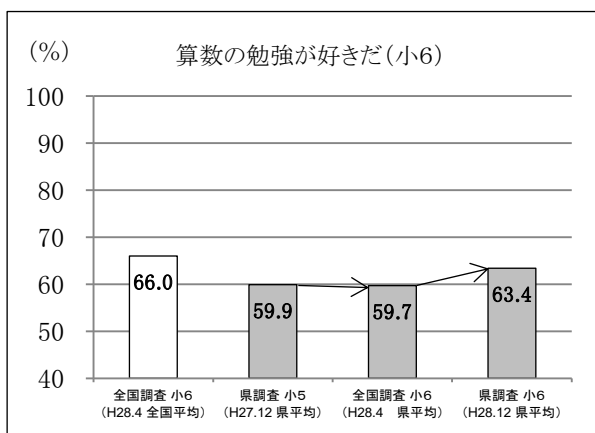
(4) 平成28年度島根県学力調査 資料編

- ① 教科に関する調査設問別解答状況一覧（資料3）
- ② 生活・学習に関する意識調査結果一覧（資料4）

## Ⅱ. 全国調査でみられた主な課題の改善状況

### 1 改善がみられた事項の例

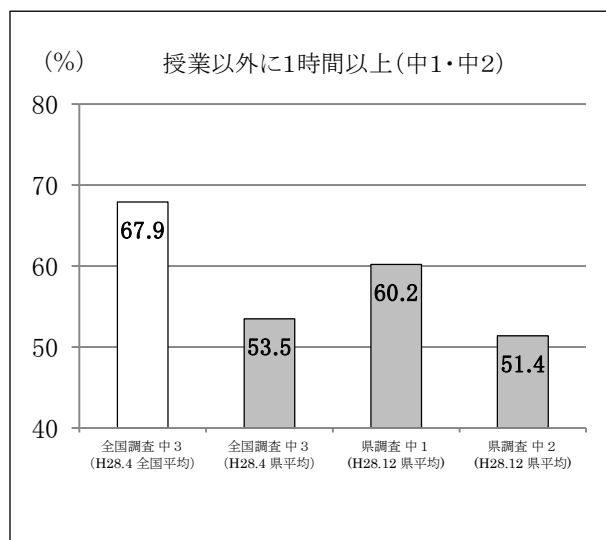
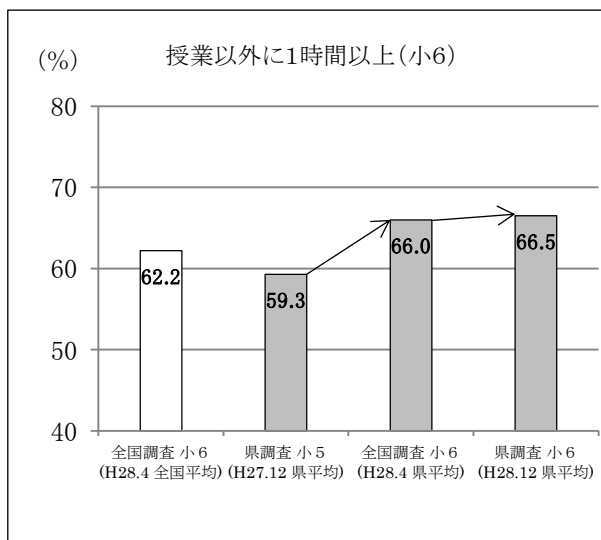
#### ○ 「算数の勉強が好きだ」「算数の授業の内容はよくわかる」と肯定的回答した子どもの割合



小6の「算数の勉強が好きだ」「算数の授業の内容はよくわかる」の肯定的な回答率は、4月の全国調査時に比べ、それぞれ3.7ポイント、1.4ポイント上昇している。

### 2 引き続き改善が必要な事項の例

#### ○ 学校の授業時間以外に普段(月～金)勉強する時間が、1日当たり1時間以上の割合



小6については、1時間以上学習する児童の割合が全国調査時に比べて0.5ポイント増加し、全国に比べても高くなっている。

中2で授業以外に1時間以上学習する生徒の割合は51.4%で、全国調査時の中3の県平均と比べても低く、全国平均を大きく下回っている。

「家で、自分で計画を立てて勉強している」ことについて、中2の数値が全国調査時の中3の数値を下回っており、課題である。

「先生は効果的な家庭学習の仕方について指導してくれる」に肯定的な回答をした中1・中2は、小学校に比べて低くなっており課題である。中学校において、これまで以上に家庭学習についての丁寧な指導が必要である。

○ 中学校数学にみられる課題の例

中1 [3] (正答率 87.5%)

$3x - 4 = 8$  を解く。

中1 [8] (正答率 39.9%)

一次方程式  $5x = x + 8$  の左辺と右辺それぞれの  $x$  に 2 を代入すると、次のような計算をすることができます。

$$\begin{array}{l} 5x = x + 8 \text{ について、} \\ x = 2 \text{ のとき、} \\ \text{(左辺)} = 5 \times 2 \qquad \text{(右辺)} = 2 + 8 \\ \qquad = 10 \qquad \qquad \qquad = 10 \end{array}$$

このとき、この方程式の解についていえることを、次のアからエまでの中から 1 つ選びなさい。

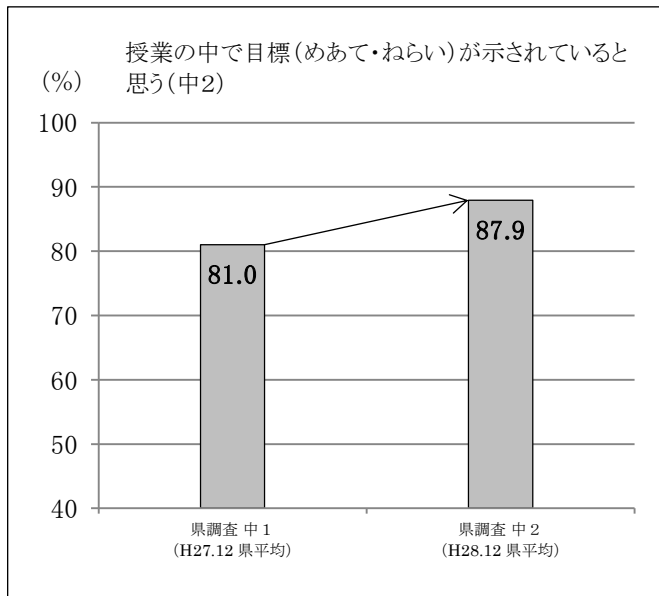
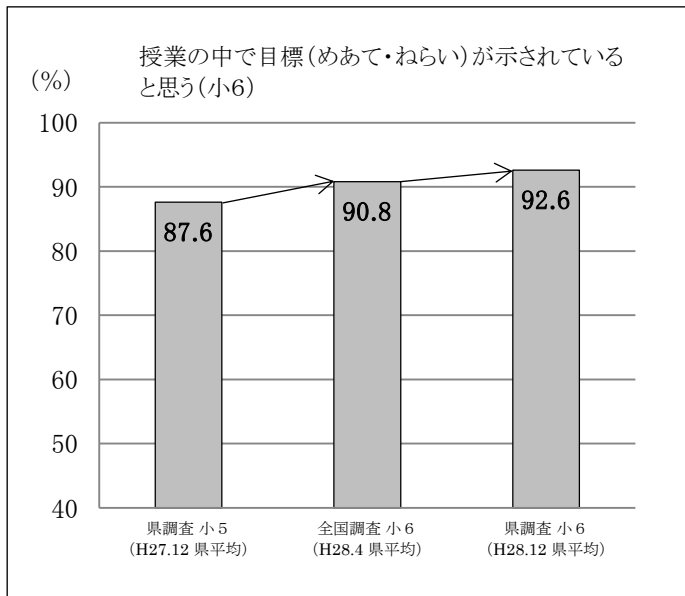
- ア この方程式の解は 10 である。
- イ この方程式の解は 2 である。
- ウ この方程式の解は 2 と 10 である。
- エ この方程式の解は 2 でも 10 でもない。

[3] の正答率 87.5% のように一次方程式を解くことはできるが、[8] のように問われると、正答イと答えた生徒が 39.9%、誤答アが 34.9%、誤答エが 20.2% で、一次方程式の「解」の意味が十分に理解できていないと考えられる。

### 3 過去の全国調査でみられた課題の改善状況

#### <課題が改善されつつある事項の例>

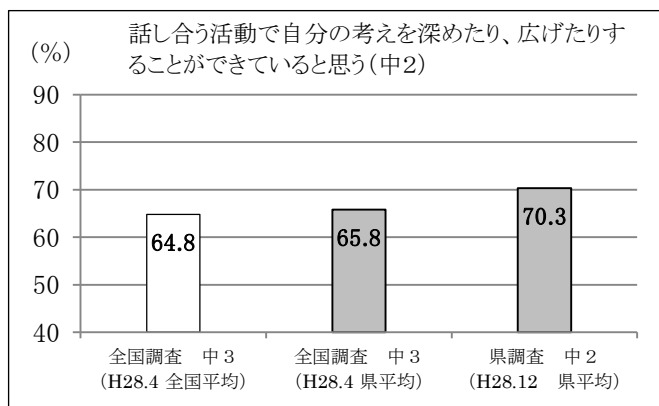
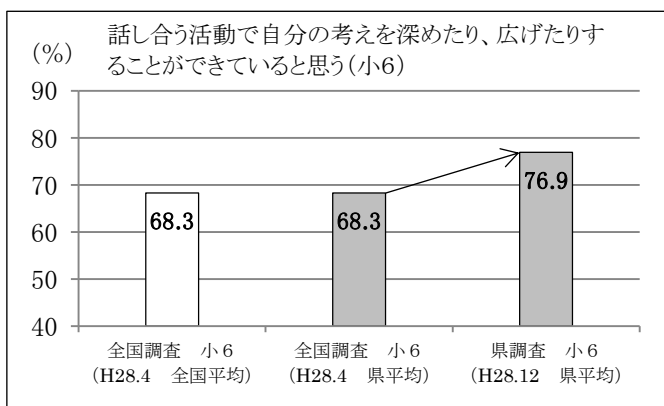
##### ○ めあて・振り返り学習



「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されていると思う割合」は、小6は全国調査時の数値から上昇している。中2も中1県調査時の数値から上昇している。小6は、「授業の最後に学習したことを振り返る活動」も4月の県平均から改善傾向にあり、これらの活動が定着してきている状況にある。

「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていると思う」割合についても、中2において4月の全国調査の中3の全国値を上回っており、改善の傾向が見られる。

##### ○ 言語活動の充実



「児童生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」について、小6は全国調査時から8.6ポイント増加している。中2も全国調査時の中3に比べて4.5ポイント高く、改善傾向にある。

○ 小数の加法・減法

<平成 27 年 4 月全国調査>  
「 $6.79 - 0.8$ 」  
小 6 62.3%



<平成 28 年 12 月県調査>  
「 $5 - 4.2$ 」  
小 4 79.3%

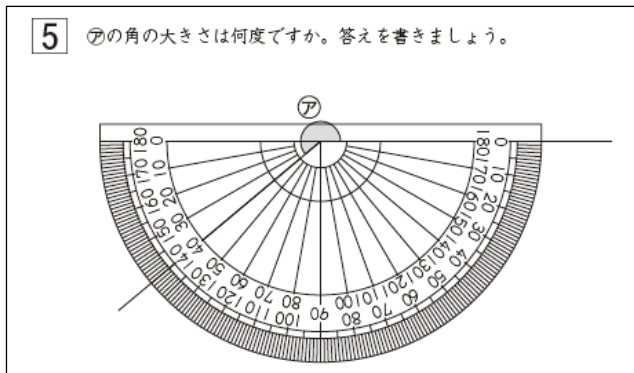
<平成 28 年 4 月全国調査>  
「 $4.65 + 0.3$ 」  
小 6 81.1%



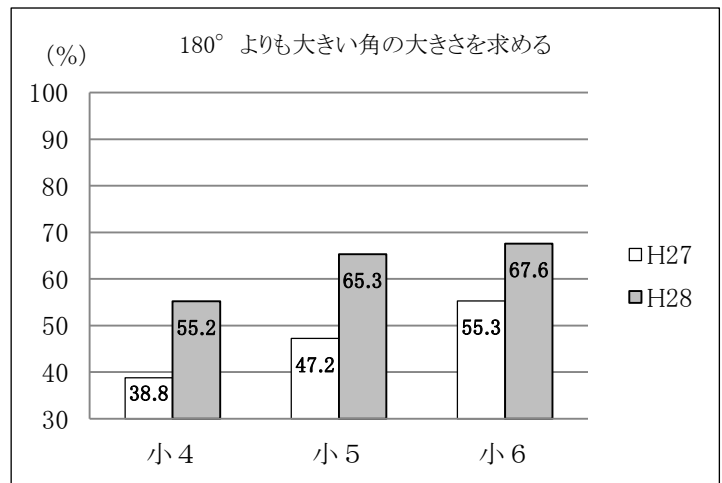
<平成 28 年 12 月県調査>  
「 $6.73 + 3.2$ 」  
小 5 76.7%  
「 $6.73 + 3.5$ 」  
小 6 86.0%

平成 27 年度及び平成 28 年度の全国調査における小 6 の正答率を参考にしてみると、平成 28 年度県調査では小 4 から小 6 においては末尾のそろっていない小数の加法・減法について確実な定着が進んでいる。

○ 180° よりも大きい角の大きさ



正答率 (%)	H27年度 県調査	H28年度 県調査
小 4	38.8	55.2
小 5	47.2	65.3
小 6	55.3	67.6



「180° よりも大きい角の大きさを求める」ことについては、平成 27 年度県調査と同様な問題を今年度も出題した。その結果、同一学年の正答率も上昇し、また、経年で比較しても上昇しており、確実な定着が進んでいる。

<引き続き改善が必要な事項の例>

○ 小数の乗法、除法の意味理解

**12** 次の図のように、白いテープの長さをもとにして、赤いテープと青いテープの長さを表しました。

図

(1) 赤いテープの長さを求める式を、次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1  $60 + 0.5$   
 2  $60 - 0.5$   
 3  $60 \times 1.5$   
 4  $60 \div 1.5$

(2) 青いテープの長さを求める式を、次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1  $60 + 0.3$   
 2  $60 - 0.3$   
 3  $60 \times 0.7$   
 4  $60 \div 0.7$

選択番号	反応率	備考
2	21.0 %	
3	35.9 %	正答
4	39.8 %	

**12** (1)

<平成27年12月県調査>  
 小5 65.9%



<平成28年12月県調査>  
 小5 68.9%  
 小6 74.1%

**12** (2)

<平成27年12月県調査>  
 小5 31.4%



<平成28年12月県調査>  
 小5 35.9%  
 小6 50.7%

昨年度より正答率は高くなったが、(2)については、誤答「4」を選んだ児童が多い。割合を表す小数について、基準量より比較量が大きくなる場合は加法・乗法、特に小さくなる場合は減法・除法の計算になると判断する傾向にあり、小数の乗法、除法の意味理解が十分でないと言える。



○ 一定の条件のもとで自分の考えを書く力

**4** 原田さんは「インターネットの普及とその使い方」という内容で意見文を書きました。次の【構成メモ】と【意見文】をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

三 原田さんは、【意見文】を書いた後、先生からインターネットのデメリットの具体例を挙げるとよいというアドバイスを受け、【構成メモ】を作り直すことにしました。また、【意見文】にそのまま使える【反論への考え】も合わせて作成しました。【反論への考え】にあてはまる【反論への考え】を、次の条件1、2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 問題点①・②への対応を具体的に述べること。

条件2 書き出しの言葉に続くように八十字以上、百字以内で書くこと。

【作り直した構成メモ】

- ・インターネットは、私の生活に不可欠だ。
- ・インターネットが普及している現状。
- ・インターネットは危険だ。

問題点① インターネットの情報は正しいとは限らない。

問題点② インターネット依存（インターネットの使用を自分でコントロールできない）。

【反論への考え】

インターネットを使用するときは、

「構成メモを使って『反論への考え』を書く（80字以上100字以内）」問題に対して、中2の正答率が9.8%であった。平成27年度県調査においても「登場人物の心情が変化した理由を条件に従って説明する（80字以上100字以内）」の中2の正答率は12.1%であり、一定の条件のもとで自分の考えを書く力に引き続き課題がある。

### Ⅲ. 教科に関する調査と生活・学習に関する意識調査のクロス分析結果

#### 1 指導方法と正答率の関係

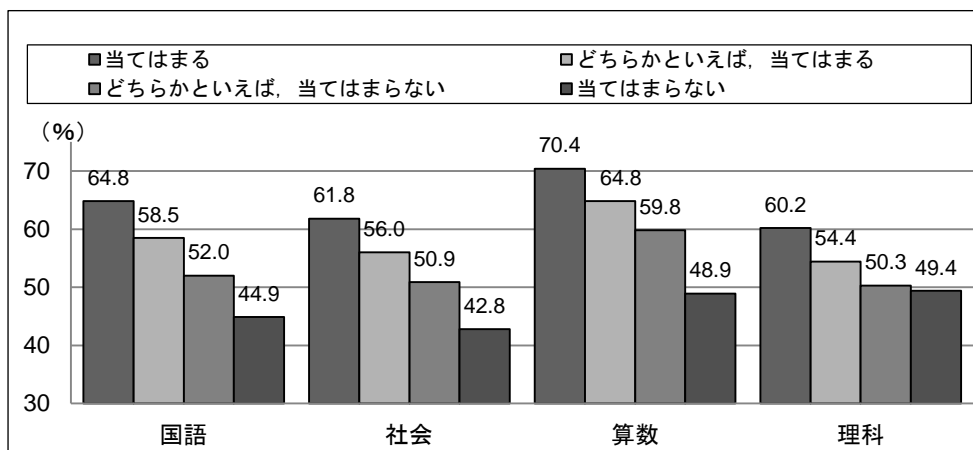
指導方法についての以下の項目に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向がみられる。

○授業では、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）が示されていると思う。

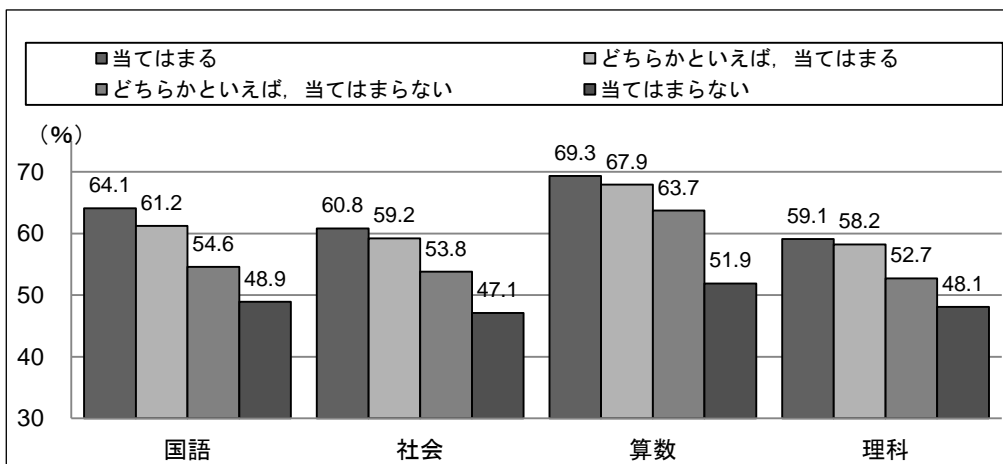
○授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていると思う。

○授業では、自分の考えを発表する機会を与えられていると思う。

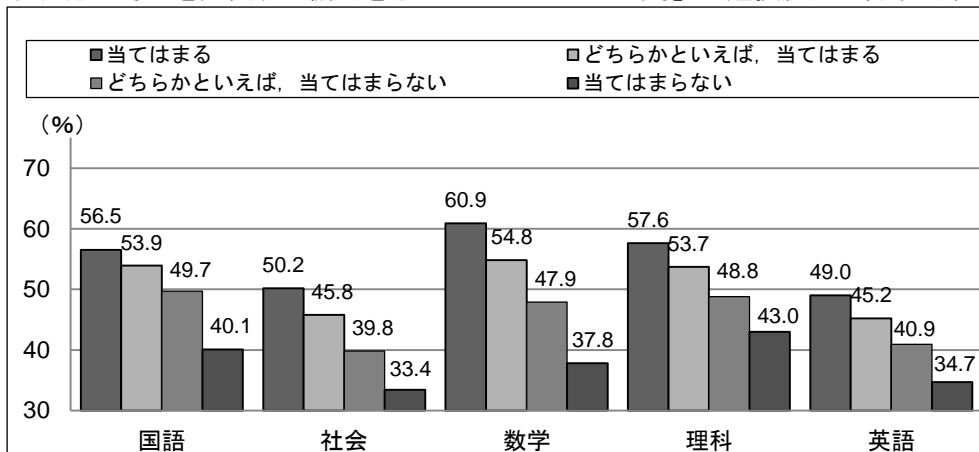
例)「授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されていると思う。」の選択肢別正答率（小6）



例)「授業であつかうノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていると思う。」の選択肢別正答率（小6）



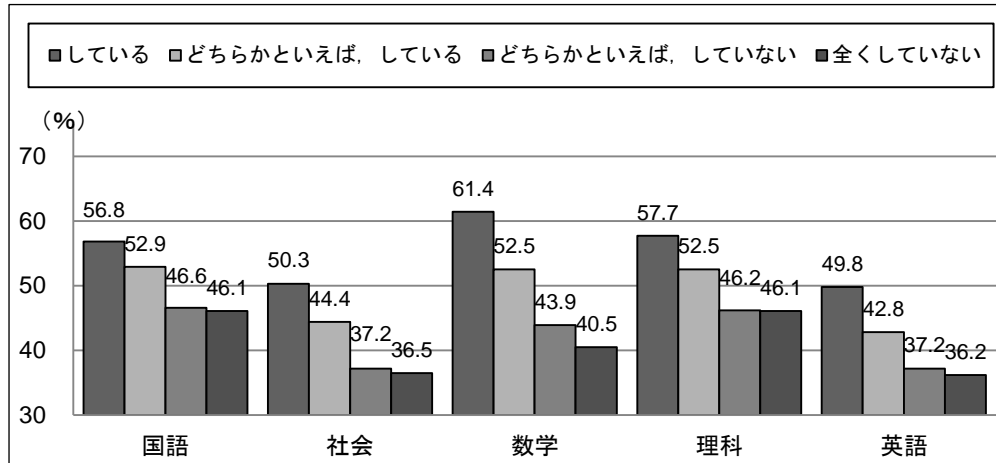
例)「授業では、自分の考えを発表する機会を与えられていると思う。」の選択肢別正答率（中1）



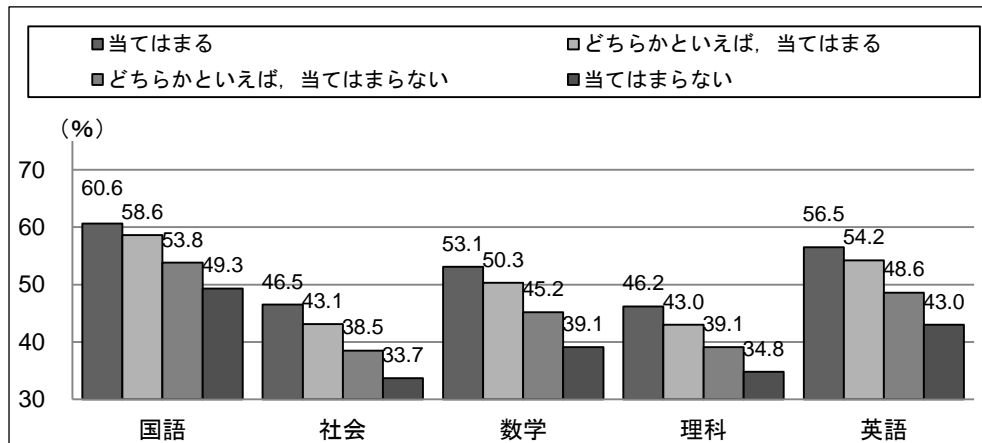
## 2 学習状況と正答率の関係

児童生徒の学習状況について、「学校の授業以外での学習」、「根拠を明らかにして筋道立てて考えたり表現したりすること」「読書に関する意識」についての項目に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向がみられる。

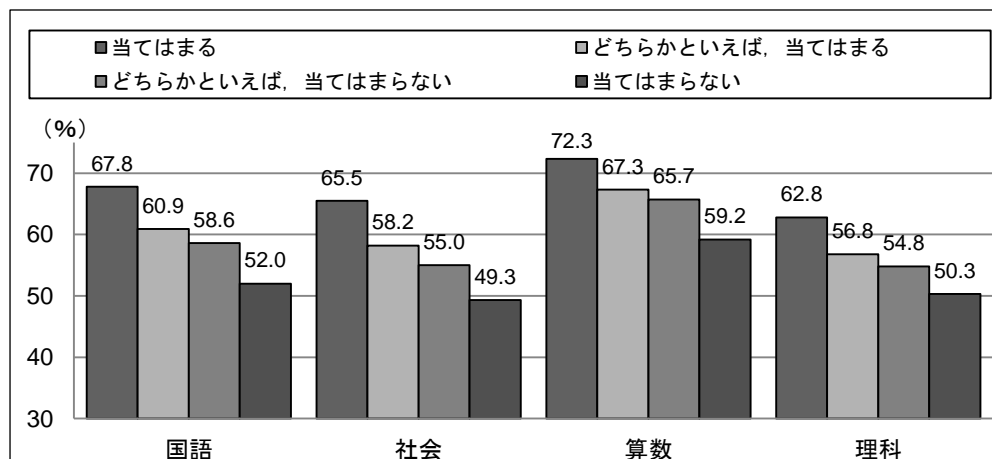
例)「家で、学校の宿題をしている。」の選択肢別正答率(中1)



例)「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。」の選択肢別正答率(中2)



例)「読書は好きだ。」の選択肢別正答率(小6)

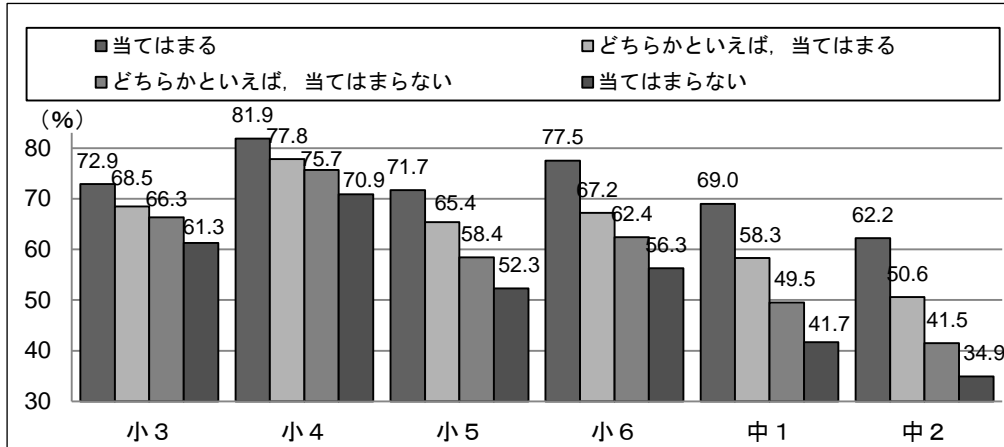


### 3 算数・数学への学習意欲と正答率の関係

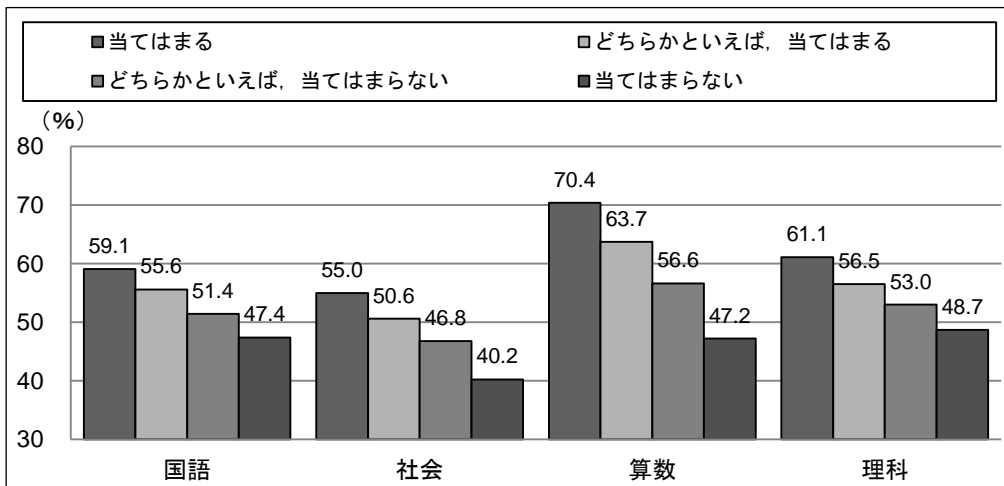
学習に対する関心・意欲・態度に関する項目に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向がみられる。

- 算数・数学の勉強は好きだ。
- 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- 算数・数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。

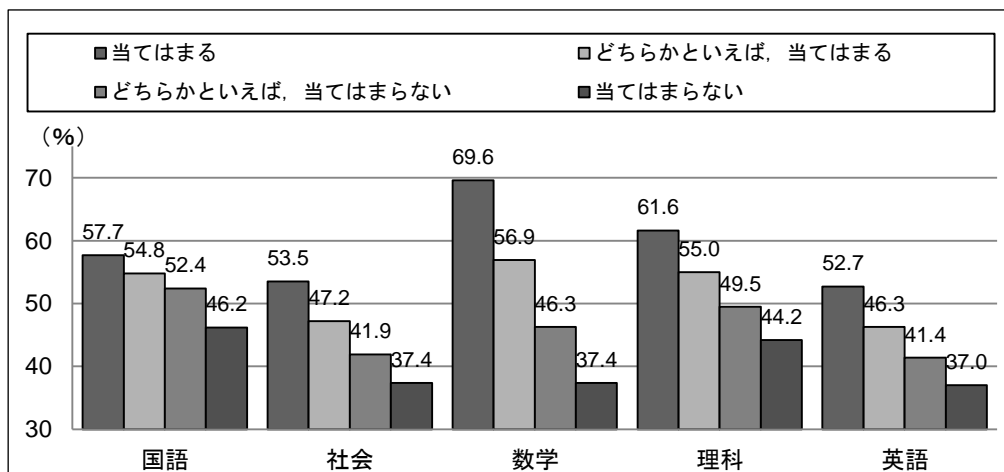
例)「算数・数学の勉強は好きだ。」の算数・数学の選択肢別正答率



例)「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。」の選択肢別正答率 (小5)



例)「数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。」の選択肢別正答率 (中1)

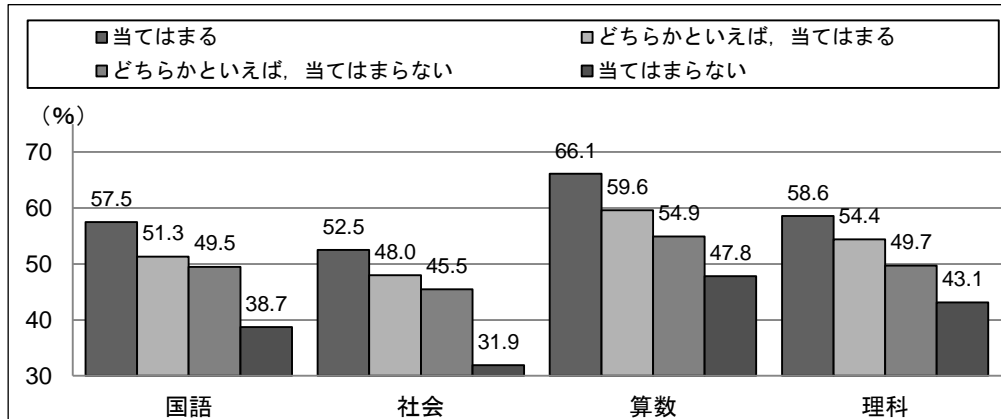


#### 4 自尊感情・自己有用感と正答率の関係

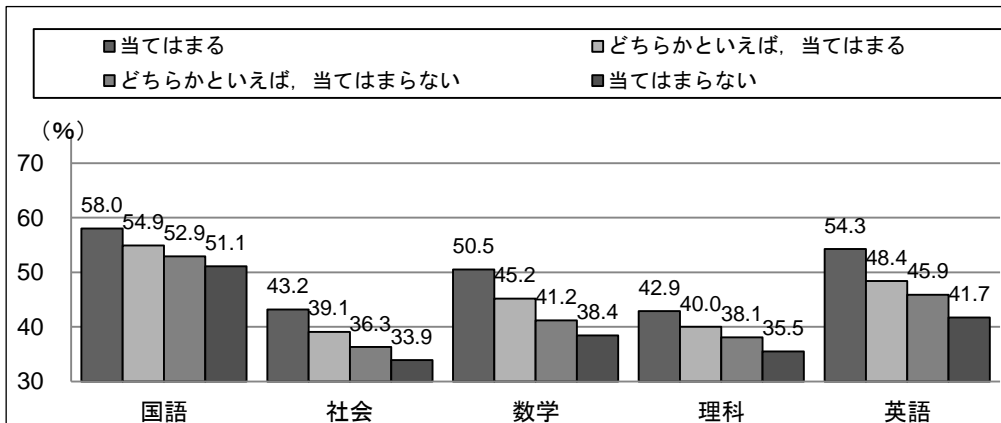
自尊感情・自己有用感に関する項目に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向が見られる。特に児童においてその傾向が顕著である。

- ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。

例) 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。」の選択肢別正答率 (小5)



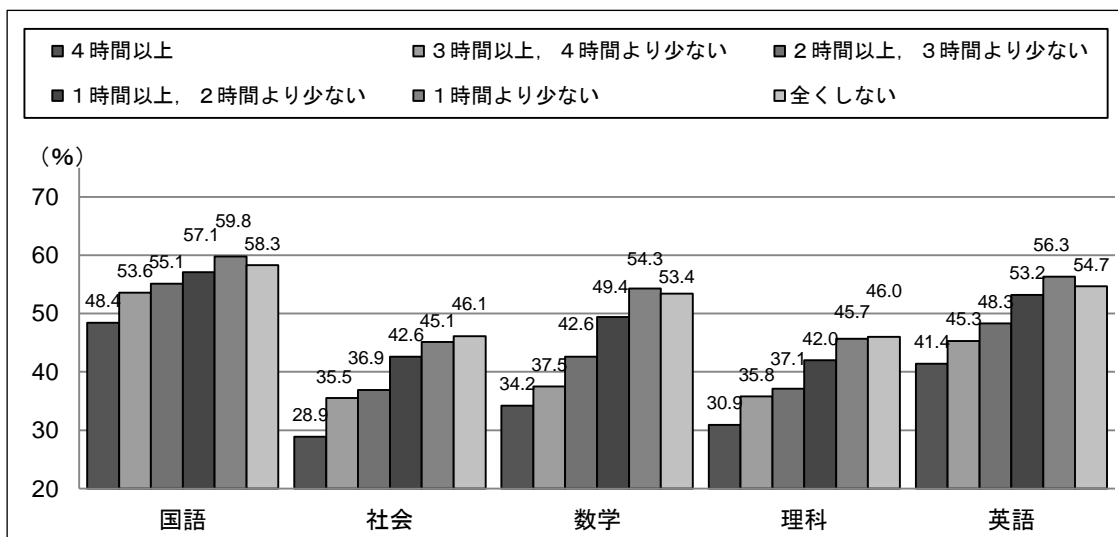
例) 「人の役に立つ人間になりたいと思う。」の選択肢別正答率 (中2)



#### 5 メディア利用と正答率の関係

携帯電話やスマートフォンの使用時間が短い児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向が見られる。

「普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使っているか。」の選択肢別正答率 (中2)



#### IV. 今後の対応（しまねの学力育成推進プランに基づく取組）

県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

##### 1 すべての小・中学校を対象とした結果説明会を実施し、結果を生かして各学校が組織的な授業改善や個別指導を進めるように働きかける。

各学校の組織的な授業改善の取組や個別指導の充実をめざし、学力と学習状況の課題の改善状況、今後の取組についての共通理解を促すため、学力育成の中核を担っている教員を対象とした説明会を実施。

- ・ 学校等の分析シートを基に今年度の取組の検証と今後の方策の立案
- ・ 個々の結果を踏まえたフォローアップシートを使った個別指導の充実

##### 2 算数授業の改善方針に基づく取組を引き続き推進する。

算数授業の改善方針「子どもの声でつくる算数授業」に基づく取組を引き続き推進し、算数を切り口に授業の質の改善を進める。

##### 3 課題に基づく今後の指導改善のポイントについて、平成29年度「各教科等の指導の重点」にまとめ、すべての小・中学校に配付し、徹底を図る。

授業改善に向けた取組の視点や各教科等の指導改善のポイントを毎年発行している「各教科等の指導の重点」に記載し、訪問指導などで活用してその徹底を図る。

##### 4 家庭学習の充実に向けての効果的な取組について情報発信を行う。

学校全体で家庭学習の充実に向けて取り組んでいる例や、授業と家庭学習をリンクさせて家庭学習の課題提示を工夫している例など、効果的な取組について情報発信を行う。

